

令和3年度学校自己評価システムシート（県立熊谷特別支援学校）

児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、可能性を伸ばし、保護者・地域から信頼される学校

- 重点目標**
- 児童生徒一人一人を大切に、成長発達を促す授業の充実
 - 学校・家庭・地域がつながり、チームワークを生かした学校づくりの推進
 - 健康で安心安全に過ごせる教育環境の整備・充実

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	6名

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標				年 度 評 価 （ 2 月 1 日 現 在 ）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>○複数の教職員間で児童生徒の実態と課題を捉え、指導の方向性を共有し、授業展開をしている。継続して教職員間及び保護者との情報共有と相互理解を重ね、授業の質を高めていく必要がある。</p> <p>○本校児童生徒にとって学習場面や生活場面でICT機器の活用は必要性が高くなっている。学習理解及び学習意欲を高める活用を通し、積極的に実践例を積み重ね、有効な活用を図れるようにする。</p> <p>○自立と社会参加にはコミュニケーション力は一番重要な課題であり、継続して学び続ける学習内容である。活用場面も含め、生活の中で段階的で計画的な指導を今後も継続していく。</p> <p>○学校研究や校内外の研修等での学びと授業実践の往還で、更に実践力の向上を図る。また、教職員の専門性向上に向け、OJTを活用しベテラン教員から若手教員への知識や技術の伝達を積極的に進めていくことが課題である。</p>	(1)児童生徒一人一人がわかりできる授業の充実	<p>①児童生徒一人一人の実態と課題を明らかにし、教職員間で相談しながら指導の方向性を図る中で、指導内容や教材を工夫するとともに、授業の質の向上を図る。</p> <p>②授業展開の中でICTを有効に活用し、理解と定着、活用を促すとともに、チームとしてわかりできる授業を進める。</p>	<p>①教職員間で児童生徒の実態や課題を共有することができたか。教職員間で指導の方向性を図ることができたか。</p> <p>②ICTを効果的に活用した授業で、児童生徒の学習理解、定着、活用に変容が見られ、実践を蓄積することができたか。（保護者・教職員アンケート活用）</p>	<p>およそ9割達成できた。</p> <p>①学年会及び類型会等を活用し指導の方向性を図ることができた。また、教職員間の会話等の中でも児童生徒の実態把握や課題の共有が図られ、随時指導に活かすことができた。</p> <p>②ICT機器の積極的な活用が行われた。ほとんどの授業で活用され、学習理解の一助となった。</p>	A	<p>①今後更に同僚性を高めつつ、情報の共有と相互理解を深め、子どもを中心とした指導の共通理解を学校の風土として定着を図る。</p> <p>②実践事例の更なる蓄積を目指す。ICT機器の学習における更なる活用の工夫や、生活に活かせる活用の工夫を探る</p>	<p>・保護者や教職員アンケート結果から「わかる授業づくり」に関して、双方とも一人一人を大切に個に応じた指導支援がなされたと評価されている。少数だと思われるが、教職員の共通理解や専門性の向上が指摘されている。謙虚に受け止め、実態把握から指導の内容方法等の引き続き検討をお願いしたい。</p> <p>・ICTの活用が定着したことにより、皆で同じ授業を受けていても個々に合った学習ができるようになった。児童生徒が家庭でも利用できるように保護者へもっと具体的なICT機器の活用方法等の情宣があってもよい。</p> <p>・キャリア教育の充実を保護者は望んでいる。様々な児童生徒がいる中で、その子らしい主体的な生き方の追及に尽力をお願いしたい。</p> <p>・生徒個々の自己実現、自己決定の方法は様々だと思う。卒業後、社会生活の中で自己表現することは、とても大切であり、引き続き継続してほしい。</p> <p>・支援プランに不満足な保護者がいない＝生活と将来につながる力の育成ができてきていることだと思う。</p>
		(2)生活と将来につながる力の育成	<p>①キャリア発達の教育を大切に、自己選択・自己決定や気持ちを伝える力等、主体的に自己表現できる授業づくりを行う。</p> <p>②コミュニケーション面の実態と発達段階の把握を図り、計画的に意欲と表現、手段を身につける授業を行う。</p>	<p>①キャリア発達の教育を踏まえて、主体的に自己表現ができる授業ができたか。</p> <p>②コミュニケーション力に定着や応用を促す授業ができたか。（保護者・教職員アンケート活用）</p>	<p>およそ8割達成できた。</p> <p>①自己選択・自己決定や自己表現を設定した授業づくりが多くの指導グループで行われた。</p> <p>②担任団でコミュニケーション面の実態を共通理解し、実態に応じた関わりや、コミュニケーション力向上に向けた指導が行えた。</p>	A	<p>①生活や将来像の視点を持った授業や指導を実践したが、本人及び保護者との意識の共有が十分でないこともあった。今後更に情報の共有を本人及び保護者と図り、充実したキャリア教育を図る。</p> <p>②授業のみでなく、様々な場面での系統的継続的な指導に努める。</p>	
		(3)教職員の力量形成とチームワーク指導の質の向上	<p>①教職員の学びと授業実践の往還においてPDCAサイクルを意識し、指導力の向上を図る。</p> <p>②学年や学部を超えた協働の機会を設定し、チームワークによる指導や業務の質を高める。</p>	<p>①研究や研修の学びを授業で実践検証し、教職員の力量に変容が見られたか。（教員アンケート活用）</p> <p>②協働での会議や研修、作業が行われ、良好な関係でチームワークを活かし、指導や業務の質が高められたか。</p>	<p>およそ7割達成できた。</p> <p>①各指導グループごとに方向性の一致が図られ、自立活動との関連を図った教科指導を行う授業が増えてきた。</p> <p>②コロナ禍により協働の機会は少なかったが、夢祭等少ない機会の中でもチームワークを活かし、指導及び業務の向上が図れた。</p>	B	<p>①2年間取り組んだことを活かし、学んだことを着実に実践する。新たな課題から設定されたテーマから研究を更に進め、新たな学びとしていく。</p> <p>②コロナ感染対策をしっかりと実践した中で、できることを着実にやっていく必要がある。</p>	
2	<p>○職員間の良好な関係づくりと、チームワークを土台とした組織文化の醸成を図る。</p> <p>○昨年度よりコミュニティースクールとして始動しはじめたが、コロナ禍での実践が課題となった。地域と双方向的につなげ、地域に根ざした学校運営を進めていく。</p> <p>○保護者との合意形成を図り、生活や将来につながる計画を立て、支援プランの作成・実践を継続している。計画したプランを確実に実施し保護者との信頼関係を深めていく。</p>	(1)心と会話を通う風通しの良い職場づくりの一層の推進	<p>①学部や学年を超えた協働の機会や研修の機会を設定し、チームとしての授業の質の向上を目指す。</p>	<p>①協働での会議や研修等が行われ、チームワークが良好な関係で、指導や業務の質が高められたか。</p>	<p>およそ7割達成できた。</p> <p>①学部や学年を超えた協力体制や研修等の機会は少なかったが、様々な機会を通し、チームワークを高めることができた。</p>	B	<p>①自身の授業や業務だけでなく協力体制を築きながら、互いの意思疎通を図りチームワークを高められるよう継続して風通しの良い職場づくりを推進していく。</p>	<p>・学校という職場においては、まずは児童生徒が中心であろうと思う。児童生徒のためになる職場づくりに努めてもらいたい。</p> <p>・先生方のコミュニケーションが、職場の雰囲気づくりにつながると思う。</p> <p>・総合的な探求の時間での企業との連携授業などは素晴らしい試みであると思う。子供たちの自信に大いに繋がるものと思う。このような取り組みを今後も期待したい。</p> <p>・オンライン等の交流は、全ての児童生徒が参加できるようにすることを望む。</p> <p>・保護者と職員との間で児童生徒の将来について共通認識を持った上で、将来について望ましい方向へ指導してあげて欲しい。</p> <p>・アンケートの11の結果、保護者と教職員間の不満足度に温度差があることが気になる。</p>
		(2)コミュニティースクールとしての学校づくりの推進	<p>①HPでの教育活動の発信を更に充実させるとともに、整理した実施内容を実施に移す。</p>	<p>①本校の教育活動を地域に発信することや協働での学習活動を検討・実施することができたか。</p>	<p>およそ6割達成できた。</p> <p>①こまめに本校教育活動の様子をアップすることができた。高等部生徒会を中心に地域貢献を考えていたが、コロナ禍において実施は難しかった。</p>	B	<p>①現在2回の運営協議会を行ったが、学校の様子を知っていただいた。今後リモート等活用できるものを最大限活用し、積極的な発信・交流に努めていく。</p>	
		(3)保護者との連携の強化	<p>①連絡帳や個別面談等を通して、連携や情報共有を密にするとともに、児童生徒・保護者のねがいを反映し、成長発達を促す授業を行う。</p>	<p>①保護者との連携や情報共有を密にするとともに児童生徒・保護者のねがいを反映し、成長発達を促す授業ができたか。（保護者アンケート活用）</p>	<p>およそ9割達成できた。</p> <p>①保護者に会う機会は極端に減ってしまったが、日々の連絡帳や電話等で密な連携が図れた。</p>	A	<p>①今後更に密な情報の共有を行い、児童生徒の発達や将来について共通理解を深める。</p>	
3	<p>○新型コロナウイルス感染症予防に向け、校内の環境衛生及び学習上の感染症対策・健康観察の徹底を図り、安心安全な学校運営を継続していく。</p> <p>○安全な給食提供が複数のチェックにより実施・確認されている。食事指導に関しては、食生活を豊かにし、摂食機能の向上を目標とし指導を行う。</p> <p>○医療的ケアに関する関係者間での情報共有と緊急時の対応訓練は実施されており、今後も継続してチームで対応する。</p> <p>○自然災害や事故、感染症を想定した組織的な訓練や準備を継続する。</p>	(1)新型コロナウイルス感染症予防の教育と環境整備	<p>①校内環境衛生及び体調管理の徹底を図り、安心安全な環境づくりを行う。</p>	<p>①感染防止対策ガイドライン等に沿った感染予防対策が行えたか。</p>	<p>およそ9割達成できた。</p> <p>①ガイドラインに沿った感染予防対策で体調管理の徹底を図ると共に安心安全な環境整備が行えた。</p>	A	<p>①今後もガイドラインに沿った継続的な感染予防対策が必要である。</p>	<p>・できる限りの対策を講じていると思う。</p> <p>・コロナ禍において様々な対策をとり、感染予防を図ることは健康で安全に学校生活を送る上で、最低限必要なことである。引き続き、ガイドラインに沿った取り組みをお願いしたい。</p> <p>・事故なく楽しい給食指導や適切な医療的ケアがなされていることと思う。引き続き、これまでのヒヤリハットを共有し取り組んでいただきたい。</p> <p>・若干満足されない方がアンケート上いるので、そういった意見をくみ上げられると更に良いと思う。</p> <p>・水害については保護者に伝わっていないのではないかと。</p> <p>・緊急時には、保護者さんとスムーズに連携できるような協力してもらいたい。</p>
		(2)安全な給食提供と摂食指導、チーム対応での医療的ケアの実施	<p>①給食室を中心とした安全でおいしい給食の提供と、摂食において個々に応じた摂食指導を行う。</p> <p>②安心安全な医療的ケアのチーム対応を継続する。</p>	<p>①安全な給食の提供と個々に応じた摂食指導ができたか。</p> <p>②安心安全な医療的ケアをチームとして連携・協力してきたか。（保護者アンケート活用）</p>	<p>およそ9割達成できた。</p> <p>①事故もなく安全な給食を提供できた。児童生徒からの感想も良好であった。</p> <p>②事故なく安全にチームで取り組めた。</p>	A	<p>①今後も継続して栄養士・調理員・給食部と連携し安全でおいしい給食の提供を目指す。</p> <p>②医療的ケア検討委員会や保健部と今後も強力で連携し事故の無いよう取り組む。</p>	
		(3)緊急時・災害時対策	<p>①様々な緊急時・災害時を想定して組織的に対応できるよう体制整備を行う。</p>	<p>①事故等の緊急時や自然災害等への組織的対応の想定と訓練や準備ができたか。</p>	<p>およそ9割達成できた。</p> <p>①組織的に訓練を実施できた。</p>	A	<p>①組織的対応のマニュアル整備を継続して進める。</p>	

